

第 15 回 金沢自転車ネットワーク協議会 議 事 概 要

日 時：平成 29 年 2 月 8 日（水）10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：国土交通省 金沢河川国道事務所 2 階会議室

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 事
 - (1) これまでの取組経緯
 - (2) 平成 28 年度以降の取組
 - (3) 広域的な自転車ネットワーク候補路線選定に向けたパブリックコメントの結果と対応方針
 - (4) 金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の見直しについて
 - (5) 今後の予定
4. 閉 会

議 事 要 旨

- 広域的な自転車ネットワーク候補路線選定に向けたパブリックコメントの結果と対応方針について
 - ◎候補路線について了承を得た。今後、候補路線への追加を検討する路線については、次年度以降に調査を行い、追加すべきかを判断することです了承を得た。
 - ◎二口町～疋田東交差点の路線は、以前高校生を対象に調査を行っているため、調査結果を参考にしてほしい。
 - ◎北陸大学では留学生も自転車を多く利用している。学生の教育の面からも、高校や大学周辺の整備をすることは大切である。

- 金沢自転車通行空間整備ガイドライン(案)の見直しについて
 - ◎ガイドラインの見直し内容について了承を得た。
 - ◎ガイドラインにとらわれるのではなく、クルマや歩行者の立場も配慮する必要がある。

【第 15 回金沢自転車ネットワーク協議会の様子】



委員名簿

分類	所属・氏名	出欠
学識者	金沢大学 教授 高山 純一	出席
	北陸大学 名誉教授 三国 千秋	出席
	地球の友・金沢 三国 成子 (内閣府 第9・10次中央交通安全対策会議専門委員)	出席
警察	石川県警察本部 交通部 交通企画課長 林 邦彦	代理出席 (源 課長補佐)
	石川県警察本部 交通部 交通規制課長 久田 悦弘	出席 (随行：畑 規制補佐)
	金沢中警察署 交通官 遠藤 英之	出席 (随行：交通第一課 渡辺 企画係長)
	金沢東警察署 交通官 西川 真一	出席
	金沢西警察署 地域交通官 森 幸生	代理出席 (小竹 交通第一課長 随行：交通第一課 竹内 企画規制主任)
行政 関係	国土交通省 金沢河川国道事務所 道路管理第二課長 中田 光	出席
	石川県 土木部 道路整備課長 飯田 晋	欠席
	石川県 土木部 都市計画課長 二塚 保之	代理出席 (山 課長補佐)
	石川県 県央土木総合事務所 維持管理課長 吉元 研司	出席 (随行：島田 係長)
	金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課長 多田 正人	出席 (随行：松村 主査)
	金沢市 土木局 道路管理課長 木村 裕一	出席 (随行：竹村 主査)
オブザ ーバー	白山市 建設部 土木課 計画係長 山岸 正勝	出席
	野々市市 産業建設部 建設課 係長 西村 裕之 主査 金森 祐太	欠席
	津幡町 産業建設部 都市建設課 課長 岩本 正男	出席
	内灘町 町民福祉部 環境安全課 課長 本 郁夫	出席

※敬称略

議 事 概 要

○各委員、●事務局

■開会

●事務局（金沢河川国道事務所調査第二課 餘久保課長）

定刻となりましたので、ただいまより、第15回金沢自転車ネットワーク協議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、事務局を担当しております、国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課長の餘久保でございます。どうぞよろしく願います。

それでは、開会にあたりまして、高山会長より、ご挨拶をお願い致します。

■会長挨拶

○金沢大学教授 高山会長

今年で金沢自転車ネットワーク協議会が発足して6年経つことになる。もともとは、平成19年度に山の上の自転車走行指導帯を検討したことから始まった。これまで、市内中心部における自転車通行空間整備ネットワークを検討、整備してきたが、今回は郊外部における、広域的な自転車ネットワーク候補路線を選定しようということである。このような取り組みは、県内では石川県のほか、加賀市でも整備計画を作成中である。また、先日は静岡で自転車利用環境向上会議があったとも聞いている。今日は、今年度取り組んできた内容と、広域的な自転車ネットワーク候補路線について、パブリックコメントの結果に基づいて検討していきたい。

■これまでの取組経緯／平成28年度取組状況

○金沢大学教授 高山会長

静岡の自転車利用環境向上会議に行ってきた3名の方に、それぞれ感想をいただきたい。

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 餘久保課長

今回金沢自転車ネットワーク協議会の活動の経過をベースにパネリストとして出させていただきました。山の上の自転車走行指導帯整備から始まり、取組を継続していくことで成果を生んできた。先生方の熱意に後押しされて、私達もここまで続けることができていたため、結果が出てくるのはありがたい。毎回、試行錯誤を行っており、その検証の場として自転車ネットワーク協議会があることが、これまで継続できている理由の一つではないかと思っている。

2日目はサイクルトレインに乗ってきた。電車で自転車を載せて移動し、このようなツー

リングの仕方もあるのだと感じた。金沢では北陸鉄道が自転車を載せて乗車してもよい区間があるため、金沢でも実施の可能性はあると思う。実際にやってみるということが大事だと感じた。

○金沢市 歩ける環境推進課 多田課長

金沢の取組は着実に全国に広がっていると感じた。直江谷のサイクリングツアーを実施したが、このように自転車を「つかう」ということをもう少し広げていきたい。近隣の市町も含めて考えていくべきことでもある。

デンマークの自転車教室では、子どもが喜ぶ姿が見られた。自転車に乗れない子どもも増えてきているため、小さいうちから自転車に親しむ仕組みも考えていきたい。

○石川県県央土木総合事務所 維持管理課 島田係長

事例発表に対する会場からの意見では、自動車学校に自転車の路面表示を設置し、指導することや、身障者の視点でも自転車利用環境について考えていく必要性等が挙げられた。今後、このような検証をしていくことも大切ではないかと感じたところである。

■広域的な自転車ネットワーク候補路線選定に向けたパブリックコメント結果と対応方針について

○地球の友・金沢 三国成子委員

追加で検討する候補路線として挙げられている二口町～疋田東交差点のルートだが、以前高校生 1,500 人を対象に危険箇所を調査し、マップにまとめている。これらの調査結果についても、また参考にしてほしい。

●事務局（金沢河川国道事務所調査第二課 堀口専門官）

ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

○北陸大学 名誉教授 三国千秋委員

北陸大学に関するパブリックコメントに関しては、先生や学生からも自転車通行空間整備に関する要望が出ている。

自転車関連事故が著しく減ったことは、協議会の最大の成果である。金沢市が、今後は高校周辺をターゲットに絞って整備を検討すると言っていたが、非常に良いことだと思った。

北陸大学は留学生が多く、自転車を良く利用している。留学生に対しても自転車ルールの教育として整備していったらどうか。

○金沢大学教授 高山会長

金沢大学では、交通安全講習を毎年県警やJAFに協力してもらい実施している。駐車許可証をもらえる人に対して、交付日に実施しているため、自転車利用者に対する講習会は何もしていない。過去には痛ましい死亡事故も起きているため、自転車利用者に対する安全講習を検討できればよいと感じた。

■金沢自転車通行空間整備ガイドライン(案)の見直しについて

○北陸大学 名誉教授 三国千秋委員

ガイドラインは、道路管理者が同じ整備を進めていくための基準である。加賀市では、この協議会で勉強したことも参考になっている。

○金沢大学教授 高山会長

金沢での自転車通行環境整備が、近隣の市町にも広がっていけば良いと考えているが、それぞれの自治体にはそれぞれの事情があるので、うまくいかないこともあるかと思う。しかし自転車利用者にとっては、走行する道路に県境も市境もないため、広がりを持っていただければと思う。

●事務局（金沢河川国道事務所調査第二課 堀口専門官）

高山会長から、近隣の市町についての話が出たので、オブザーバーの方々にもご意見を伺いたい。

○白山市 山岸係長

白山市では、中心市街地において県道の整備が進んでいるが、限られたスペースの中で自転車通行空間を設置することは難しい状況である。県とも協議し、検討していきたい。

○津幡町 岩本課長

津幡町では、自転車が危険な通学路があり、金沢市の自転車走行指導帯を参考に整備した路線がある。大変評判が良かったことから、通学する自転車が多い津幡駅前において、県に要望を出したが、まず町全体のネットワークを検討してはどうかと宿題を出されているところである。教育委員会とも連携し、現状を把握してから再度要望していきたい。歩行者に対する安全対策は進めているものの、自転車の整備との兼ね合いが難しいと感じている。

○内灘町 本課長

内灘町の中学校は完全スクールバス制になっている。高校生は、金沢市に自転車で通学する生徒も多いため、今後金沢の整備を参考にしていきたい。

○金沢大学教授 高山会長

いずれも前向きなご発言だったので、具体化していただければと思う。

■今後の予定

○北陸大学 名誉教授 三国千秋委員

先日、金沢の自転車に対する取組がNHKの全国放送で紹介され、運転免許センターで自転車の左側通行の安全性について実験されており、非常に説得力があった。

年1回開催している勉強会の雰囲気も実に良い。新しいことを勉強して取り入れていくことと、実施したことについて検証していくこと、どちらもできている。最近では県外からも勉強会に参加してくださっているため、他の地域にも発信していきたい。

○地球の友・金沢 三国成子委員

今回、静岡の自転車利用環境向上会議では、警察に対する意見が少なかったことに驚いた。以前は警察に対する不満が多かったため、変化を感じた。

道路が狭くてガイドラインどおりに整備できないという意見もあったが、それに対して本省の方から「配慮」という言葉が出た。ガイドラインどおりにするべきだと思いがちだが、ガイドラインどおりの道路は少ないため、自転車の事だけを考えるのではなく、クルマや歩行者の立場も配慮する必要があると学んだ。

障害のある人から出た意見では、高齢化も考えて皆が安全に歩けるような整備や教育が必要であるということも学んだ。

先程紹介した高校生に対するアンケートには、内灘高校や星稜高校のデータも入っているので参考にいただければと思う。

○北陸大学 名誉教授 三国千秋委員

以前、白山市の手取キャニオンロードを見せていただき、大変魅力的で良かったが、河川敷は管轄者が違うということを言われた。自転車活用推進法が制定されたことから、今後、環境や福祉、観光等とも自転車を絡めたメニューが出て来ると思われる。様々なところと連携してはどうかと考えている。

○金沢市 道路管理課 木村課長

金沢市の道路管理課は、歩ける環境推進課で検討された自転車通行空間を、実際に整備する課である。

1年前に金沢市教育委員会とタイアップし、「学校安全通学路プログラム」を作成した。これまでは、学校長から通学路の安全点検の要望があれば、危険箇所がないかパトロールし

ていたが、5年間で市内の小中学校すべてを対象に実施することになった。一方で、高校や大学の視点はないため、課題として関係課や高校、大学とも連携していきたいと感じた。

○北陸大学 名誉教授 三国千秋委員

大学にも苦情が入るため、ぜひ正式に依頼してもらいたい。交通安全指導は既に実施しているが、大学間でもぜひ連携を進めていただきたい。

○金沢大学教授 高山会長

今回の協議会では、自転車ネットワーク候補路線が決まった。整備予定の期間が色分けされているが、ぜひ前倒しにできるように予算取りをしていただきたい。ガイドラインの見直しも上手く収まってきたと思っている。ガイドラインどおりの整備が難しいならば、配慮という形で実施していくことが、何もしないより良いのではないかと感じた。

■閉会

●事務局（金沢河川国道事務所調査第二課 餘久保課長）

高山会長、委員の皆様、活発なご議論をいただき、ありがとうございました。

今回のご意見を踏まえ、広域的な自転車ネットワーク候補路線（案）及び金沢自転車通行空間整備ガイドライン（案）の修正、公表を進めていきたい。近隣の市町のご意見を伺うこともでき、明るくオープンな雰囲気良かったと思っている。今後もこの自転車ネットワーク協議会は、明るくオープンな雰囲気のなかで進めていきたいと事務局側も感じているため、次年度も引き続きよろしくお願ひしたい。

以上をもちまして、第15回金沢自転車ネットワーク協議会を終了する。

以上